

◆研究概要等

英語学を専門分野とし、意味論と語用論のインターフェースにある問題を中心に研究をしています。具体的なテーマには、意味・語用論的観点から不定冠詞や冠詞が付されない名詞句の意味解釈の多様性はどのように得られるのか、論理的に得られる意味と我々が日常的に得る意味との違いはどのように生じるのか、日英のオノマトペの使用頻度やその語源の違いが世界の言語化の仕方をどのように反映しているかなどがあります。

また、英語教育学にも関心があり、特に英語学習における動機づけ(motivation)を調査しています。最近では、社会言語学、異文化コミュニケーション、比較文化論にも研究テーマを広げつつあるところ です。

教育・基礎教育部門
言語学研究室
准教授

にしむらかなえ

西村香奈絵

kn@socio.kindai.ac.jp



■研究テーマ等

1. 不定冠詞や冠詞が付されない名詞句

不定名詞句を主語にする文は一般的に総称文以外では用いられにくいのは何故かや、「a+名詞」を主語にする総称文と「every + 名詞」を主語にする総称文の違い (eg. {A/ ?Every} rolling stone gathers no moss.) は何か、否定コピュラ文の補語位置の「any+名詞」と「a+名詞」の意味の違い (eg. John is not any doctor ≠ John is not a doctor.) は何故出ることかといった問題に取り組んできました。不定名詞句は意味論では、「一つの～」や「(ある数量の、複数の)～」のような意味を表すとされますが、このような意味の措定では、上記のような問題を解決できません。そこで意味論からのアプローチに加え、文脈から与えられる情報や要請といった語用論的要因を考慮に入れ、言語の意味解釈メカニズムを解明していきたいと考えています。

2. 誘導推論

意味論と語用論の区別は峻別するのが難しい部分もありますが、論理的意味以外の意味を我々が導き解釈しているような場合には、我々の論理関係の理解と共に、様々な文脈から得られる情報をどのように利用し解釈を導くのかを知る手がかりを得ることができます。例えば誘導推論（「彼が来ないなら、私も行かない」から「彼が来るなら、私も行く」を導く推論）は、論理的には導かれませんが、誘導推論が起こるメカニズムは、条件文前件の表す事態と後件の表す事態の間の起こりやすさの相対的大小関係という文脈や文化に依存する語用論的知識が働いていることを示しています。このような、論理的には導かれませんが、我々が日常的に導く意味に注目し、人間の言語の意味解釈メカニズムを解明することを目指しています。

3. 日英語のオノマトペの起源と用法

日本語はオノマトペが豊富な言語として知られていますが、英語との比較においては、その用法や語源の異なりに興味深い点を見出すことができます。日本語では、擬音語や擬声語は間投詞として引用形で用いられる用法が基本であり、この点は上古の時代より変わっていません。それに対して、英語では、日本語のように副詞的に用いられるより、名詞あるいは動詞として用いられるのが最も一般的です。さらに、その語源を調べると動詞であるものが多く、間投詞起源を基本とする日本語とは対照的です。ここに、音や様態そのものやそれらが存在する状況全体を表現しようとする日本語に対して、対象としての音、あるいは音を出す行為や音を出す対象といった音を引き起こすという行為に注目する言語であるという対比的な

特徴を垣間見ることができます。

4. その他

e-learningとして学部で使用しているエッセイ添削サービス「Criterion」の利用における学生の満足度ややる気向上等の観点でアンケート調査を行い、英語習熟度別に分析を行いました。今後も、英語教育の向上に役立つ研究にも貢献したいと考えています。

社会言語学、異文化コミュニケーション、比較文化論における研究としては、日本語の「いる・ある」の使い分けにおける日本文化の「関係」に基盤を置く存在の捉え方について考察を行っています。今後は、さらに広く社会や文化とのかかわりにおいて言語現象をとらえる研究も平行して続けていく予定です。

●論文・作品・表彰・特許等

1. 西村香奈絵 (2014) 「擬音語・擬態語に関する日英対照研究--Beatrix Potter 『The Tale of Peter Rabbit』他とその日本語訳を観察対象として」『近畿大学教養・外国語教育センター紀要外国語編』5(1), 55-72.
2. 西村香奈絵 (2014) 「『いる』と『ある』の文化的側面」『言語文化学会論集』第43号, 83-94.
3. Nishimura, Kanae (2013) “Demotivating Factors in Writing Classes that Utilize Online Evaluation Services”, JACET Kansai Journal 15, 72-91.
4. 西村香奈絵 (2013) 「矛盾をきたすように見える否定文」『近畿大学教養・外国語教育センター紀要外国語編』4(1), 39-54.
5. 西村香奈絵 (2012) 「不定名詞句主語を持つ否定文—否定文の出来事解釈と限定詞交替の問題」, 『フランス語学の最前線』坂原茂他(編) (pp. 277-303) ひつじ書房.
6. 2007年3月25日：博士号（人間・環境学）（京都大学）

▲趣味等

部屋で一人地味に没頭できることが好きです。フルート、裁縫、陶芸、保存食づくりなど。

◆ゼミの宣伝等

多少焦ったり、うしろめたく感じたりもしながら、自分の感性に正直にのびのびと学んでほしいです。